

授業概要（シラバス）

授業科目名	基礎看護学技術論1		
授業担当者名	本多 利枝、林 智子、出原 弥和、西村 美帆、宮村 啓子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次前期
教員担当形態	複数（主担当：本多利枝）	ナンバリングコード	241-2FUN2-02
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 看護の対象の日常生活を支える看護実践に共通の基盤となる知識・技術を自らの主体的な学習によって修得し、その過程を通じて看護技術の創造性について理解する。 〔授業科目の到達目標〕 1. 看護の対象の生活現象をイメージしながら、それをアセスメントするための知識を修得できる。 2. 演習で実施する看護技術については、自己学習を活用して修得レベルまで到達させる。 3. 模擬対象に看護技術を実施するなかで、その看護技術の原理や方法の根拠を考えることができる。 4. 模擬対象に実施した自分の看護技術が、対象の安全・安楽・自立への支援を考慮した内容になっているかを評価できる。 5. 自分の実施した看護技術と他者の看護技術を比較検討し、看護技術の行為が看護者自身の看護観および科学的思考によって表現されることが理解できる。		
ディプロマポリシーとの関連	「DP 1. 知識・技能」○NDP3. 「DP 2. 思考力・判断力・創造力/想像力」◎NDP4.		
授業の概要	共通看護技術を学ぶ目的は、あらゆる看護技術の土台となる全ての対象に共通する基本的な基礎看護技術を修得することにある。①技術について（技術とは、技能とは）②コミュニケーション技術（言語的・非言語的コミュニケーション、「話す」「聴く」「伝える」基本技術）③観察・測定・記録・報告の技術（意義、記録と報告の内容）④安全を守る技術（感染予防、転倒・転落の予防）⑤基本的な活動・休息（ボディメカニクス、体位変換、安楽な体位保持、移動・移乗・移送、休息・睡眠）⑥病床の整備（環境の調整、ベッドメイキング、リネン交換）⑦看護援助の判断基準となるバイタルサインの基本について学ぶ。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての実務経験をもとに、実際の医療現場で行われている看護技術の具体例を示し、実践的な知識と技術を教授する。		
学生に対する評価の方法	テーマ毎の事前事後課題・技術チェック（30%）、授業内容の理解度確認（70%）		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回（講義）ガイダンス、看護技術の学び方、基礎看護学技術論の組み立て、演習課題の学び方（自己学習・グループ学習・演習・事後課題）、実習室の使用方法、身だしなみ、グループワーク、カンファレンス、コミュニケーション技術 第02回（講義）安全・安楽・自立、環境調整技術、感染防止の技術 第03回（演習）衛生学的手洗い 第04回（演習）個人防護策：エプロン、キャップ、マスク、手袋 第05回（講義）ベッドメイキング、ボディメカニクス 第06回（演習）ベッドメイキング、看護者のボディメカニクス 第07回（演習）ベッドメイキング、看護者のボディメカニクス 第08回（演習）臥床患者のシーツ交換（体位変換：てこ、トルク） 第09回（講義）活動援助技術、安楽援助技術 第10回（講義）睡眠・休息 第11回（演習）体位変換、ポジショニング、リラクゼーション、移乗・移送 第12回（演習）体位変換、ポジショニング、リラクゼーション、移乗・移送 第13回（演習）臥床患者のシーツ交換等の成果発表 第14回（演習）臥床患者のシーツ交換等の成果発表 第15回（講義）バイタルサインの観察技術とアセスメントの基礎知識 第16回（講義）バイタルサインの観察技術とアセスメントの基礎知識 第17回（演習）体温、脈拍、呼吸、血圧 第18回（演習）体温、脈拍、呼吸、血圧 第19回（演習）体温、脈拍、呼吸、血圧 第20回（講義・演習）バイタルサインのアセスメントと記録・報告 第21回（演習）バイタルサインの観察技術とアセスメント 第22回（演習）バイタルサインの観察技術とアセスメント 第23回（演習）血圧測定の成果発表 第24回（演習）血圧測定の成果発表 第25回（筆記試験）理解度確認授業全体の振り返り（学生受講結果アンケートの実施）		

授業概要（シラバス）

使用教科書	『基礎看護技術Ⅰ』（医学書院） 『基礎看護技術Ⅱ』（医学書院） 『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術』（医学書院） 『看護がみえる フィジカルアセスメント』（メディックメディア）
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	シラバスに基づいて、講義内容を自己学習して授業に臨むこと。初回にテーマ毎の事前学習課題を示すので、期日までに提出すること。技術演習は、講義の資料だけでなくビデオ映像を活用してイメージを持って臨むこと。授業以外の時間を利用して、技術の自主練習を行うこと。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。

授業概要（シラバス）

授業科目名	地域看護学概論																																															
授業担当者名	西出 りつ子、古田 加代子、工藤 紀子																																															
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期																																													
教員担当形態	オムニバス（主担当：西出 りつ子）	ナンバリングコード	241-1CCN1-01																																													
備考	実務経験のある教員担当科目																																															
授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 地域に暮らす人々の健康レベルの維持・向上に向けた組織的な健康支援活動と、地域看護の理念および地域の生活者を支える看護職の役割について理解する。 【到達目標】 1. 地域看護の理念と目的について説明できる。 2. 地域看護4分野それぞれの活動の場と対象の特徴について説明できる。 3. 組織的な健康支援活動において重要となる考え方について説明できる。 4. 公衆衛生看護の方法の概略について説明できる。 5. 地域の生活者である対象を支える看護職の役割について説明できる。																																															
ディプロマポリシーとの関連	DP1 知識・技能 NDP 3◎ DP2 思考力・判断力・創造力 NDP 1. NDP4○																																															
授業の概要	地域に暮らす個人と家族、集団、組織、そして地域、これら全てを対象にライフステージと健康レベルに応じて展開される健康支援活動（健康増進や健康課題の発生予防と回復に向けた組織的活動）と、生活や健康への影響要因を考えて生活者である対象と環境の両方に働きかける地域看護の4分野（公衆衛生看護、産業看護、学校看護、在宅看護）の特徴、特に公衆衛生看護の基礎的な知識について学修する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護職としての実務経験を活かし、地域看護4分野において実際に起きている健康に関連する課題やそれらへの組織的対応と個別対応についての理解が深まるよう教授する。さらに、看護の対象が地域に暮らす生活者であるとの履修者の認識を高め、「近い将来の看護師」としてもつべき意識と考え方を引き出すことを目指す授業展開とする。																																															
学生に対する評価の方法	理解度確認・小テスト（70%）および課題（30%）により、総合的に評価する。理解度確認については、別日に設定する。																																															
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	<table><tr><td>第01回</td><td>公衆衛生と地域看護学</td><td>西出</td></tr><tr><td>第02回</td><td>戦後の公衆衛生看護活動と保健師</td><td>西出</td></tr><tr><td>第03回</td><td>日本の保健医療福祉、プライマリ・ヘルス・ケア</td><td>西出</td></tr><tr><td>第04回</td><td>ヘルス・プロモーション、日本の健康増進対策</td><td>西出</td></tr><tr><td>第05回</td><td>健康課題対策（1）：障害者対策</td><td>西出</td></tr><tr><td>第06回</td><td>健康課題対策（2）：精神保健</td><td>西出</td></tr><tr><td>第07回</td><td>小テスト、地域看護の対象と地域看護活動の特性</td><td>古田</td></tr><tr><td>第08回</td><td>健康課題対策（3）：感染症対策</td><td>西出</td></tr><tr><td>第09回</td><td>健康課題対策（4）：歯科口腔保健</td><td>西出</td></tr><tr><td>第10回</td><td>ライフステージと保健活動（1）：親子保健</td><td>西出</td></tr><tr><td>第11回</td><td>ライフステージと保健活動（2）：成人・高齢者保健</td><td>古田</td></tr><tr><td>第12回</td><td>ライフステージと保健活動（3）：産業保健</td><td>工藤</td></tr><tr><td>第13回</td><td>ライフステージと保健活動（4）：学校保健</td><td>西出</td></tr><tr><td>第14回</td><td>地域包括ケアシステムの深化（ゲストスピーカー）</td><td>西出</td></tr><tr><td>第15回</td><td>海外における地域保健、多文化共生と地域看護 授業全体の振り返り（学生受講結果アンケートの実施）</td><td>西出</td></tr></table>			第01回	公衆衛生と地域看護学	西出	第02回	戦後の公衆衛生看護活動と保健師	西出	第03回	日本の保健医療福祉、プライマリ・ヘルス・ケア	西出	第04回	ヘルス・プロモーション、日本の健康増進対策	西出	第05回	健康課題対策（1）：障害者対策	西出	第06回	健康課題対策（2）：精神保健	西出	第07回	小テスト、地域看護の対象と地域看護活動の特性	古田	第08回	健康課題対策（3）：感染症対策	西出	第09回	健康課題対策（4）：歯科口腔保健	西出	第10回	ライフステージと保健活動（1）：親子保健	西出	第11回	ライフステージと保健活動（2）：成人・高齢者保健	古田	第12回	ライフステージと保健活動（3）：産業保健	工藤	第13回	ライフステージと保健活動（4）：学校保健	西出	第14回	地域包括ケアシステムの深化（ゲストスピーカー）	西出	第15回	海外における地域保健、多文化共生と地域看護 授業全体の振り返り（学生受講結果アンケートの実施）	西出
第01回	公衆衛生と地域看護学	西出																																														
第02回	戦後の公衆衛生看護活動と保健師	西出																																														
第03回	日本の保健医療福祉、プライマリ・ヘルス・ケア	西出																																														
第04回	ヘルス・プロモーション、日本の健康増進対策	西出																																														
第05回	健康課題対策（1）：障害者対策	西出																																														
第06回	健康課題対策（2）：精神保健	西出																																														
第07回	小テスト、地域看護の対象と地域看護活動の特性	古田																																														
第08回	健康課題対策（3）：感染症対策	西出																																														
第09回	健康課題対策（4）：歯科口腔保健	西出																																														
第10回	ライフステージと保健活動（1）：親子保健	西出																																														
第11回	ライフステージと保健活動（2）：成人・高齢者保健	古田																																														
第12回	ライフステージと保健活動（3）：産業保健	工藤																																														
第13回	ライフステージと保健活動（4）：学校保健	西出																																														
第14回	地域包括ケアシステムの深化（ゲストスピーカー）	西出																																														
第15回	海外における地域保健、多文化共生と地域看護 授業全体の振り返り（学生受講結果アンケートの実施）	西出																																														
使用教科書	荒木田美香子他編集：地域看護学 Theory and Practice of Community Health Nursing, 医歯薬出版株式会社, 2026. ISBN978-4-263-23368-9																																															
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	1回の講義（90分）に対して、事前と事後の学習90分を基本とする。事前学習として、授業計画の内容を手掛かりに、教科書などの書籍、学術雑誌、厚生労働省やWHOのホームページなど、確かな情報を利用して進め、講義に臨む。Moodleに事前学習を提示する場合もある。事後学習として、講義の最後に提示する課題と講義の内容・資料を参考に学習内容を深める。 なお、普段から看護学生として社会の動きに敏感になり、地域に暮らす人々の生活や健康への影響について考える習慣をもつよう努める。																																															

授業概要（シラバス）

授業科目名	成人・老年看護学概論		
授業担当者名	宮本 恵子、神谷 智子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次後期
教員担当形態	オムニバス（主担当：宮本恵子）	ナンバリングコード	241-1AGN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業のテーマ〕 成人看護学概論は、成人期にある人の特徴や健康課題をとらえ、看護の目的と役割・方法について学修し、知識を習得する。 老年看護学概論は、老年期にある人を理解し、高齢者を取り巻く社会情勢から、老年看護の目的と役割について学修し、知識を習得する。 〔到達目標〕 1. 成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴と健康課題について説明できる。 2. 健康状態（健康維持・急性期・回復期・慢性期・終末期）に応じた看護について説明できる。 3. 成人期にある人に有用な理論や概念について理解し、看護への応用について説明ができる。 4. 成人期にある人の発達課題や健康課題の特徴を踏まえて看護を提供する意義とその方法について説明できる。 5. 老年期にある人について説明できる。 6. 高齢者を取り巻く社会情勢が説明できる。 7. 高齢者の尊厳とアドボカシーについて説明できる。 8. 老年看護の対象について理解を深め、老年看護の目的と役割が説明できる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」NDP3◎ 「意欲・態度」NDP6○		
授業の概要	成人看護学概論を学ぶ目的は、成人看護学全般について看護の概要、社会的動向との関連、成人期にある人が家庭・地域・社会において果たす役割と特徴、健康上の課題について概観的に学ぶことにある。成人各期の特徴を心身の発達と生活の視点からとらえ、成人期にある人の健康課題・問題について成人看護に有用な理論・概念を概観しながら理解する。そして、成人期にある人の健康状態に応じた看護の基本について理解する。 老年看護学概論の目的は、老年看護学全般についてその看護の概要、社会的な動向との関連、高齢者の社会を概観し学ぶことにある。また、高齢社会と社会保障の概要、高齢者保健医療福祉の変遷と制度についても理解を深める。老年期の人々が健やかにその人らしく生きるためには、高齢者とその家族の生活を支え、Quality of Lifeを高めるための役割があることを理解する。さらに、高齢者を取り巻く社会の中での課題を提示しながら、老年看護における倫理的な課題について考える。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師として、成人期や老年期にある対象への医療現場での実務経験を踏まえて、成人・老年看護を取り巻く現在の動向を交えながら総合的に解説する。		
学生に対する評価の方法	成人・老年：①授業への参加および学習状況（10%）、②レポート課題（20%）、③理解度確認（70%）から総合的に評価する。 成人・老年の評価を総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 成人看護学の概要 成人看護学が対象とする人 成人期にある人の特徴（担当：宮本） 第02回 成人期にある人の健康状態と健康課題（担当：宮本） 第03回 成人各期に特徴的な健康問題（担当：宮本） 第04回 身体機能の変化に着目した看護（担当：宮本） 第05回 成人の生活を理解する視点と方法（担当：宮本） 第06回 健康をおびやかす要因と看護（担当：宮本） 第07回 成人看護学に活用される理論・モデル（担当：宮本） 第08回 理解度確認 成人期に活用される理論・モデル（担当：宮本） 第09回 老年看護学の概要、老年期の理解（担当：神谷） 第10回 高齢社会と社会保障（担当：神谷） 第11回 高齢者を取り巻く社会情勢（担当：神谷） 第12回 高齢者における保健医療福祉の変遷と介護保険制度（担当：神谷） 第13回 様々な高齢者の生活の場、高齢者施設の特徴（担当：神谷） 第14回 高齢者の尊厳とアドボカシー、老年看護における退院支援（担当：神谷） 第15回 老年看護の目的と役割、老年看護を支える理論・概念（担当：神谷） 第16回 理解度確認 授業全体の振り返り（担当：神谷） （学生受講結果アンケートの実施）		

授業概要（シラバス）

使用教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論 医学書院 ②看護診断のための中範囲理論 第3版 学研 ③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 その他適宜紹介する。
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	予習は各講義に該当するテキストの内容をよく読み、疑問や意見を明確にして授業に臨んでください（毎回60分）。復習は各回で示される学習目標に沿って、自分なりに学習内容やキーワード、各授業で示された重要事項についてまとめたノートを作成・整理し、理解しておいてください（毎回60分）。

授業概要（シラバス）

授業科目名	保健行動論		
授業担当者名	宮本 恵子、神谷 智子、櫻井 香		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	オムニバス（主担当：宮本恵子）	ナンバリングコード	241-1AGN1-03
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業のテーマ〕 わが国では人々の健康の保持・増進、QOLの向上を目指し、様々な健康づくり施策が行われている。成人・老年期のあらゆる健康レベルにある人々のwell-beingを目指した看護援助の考え方について学修し、知識を習得することを目指す。 〔到達目標〕 1. 成人の健康状態と健康を脅かす要因について説明できる。 2. 主な成人保健事業について説明できる。 3. 成人への健康保持・増進、QOLの向上に向けたアプローチの方法について説明できる。 4. ヘルスプロモーションの観点から成人の健康づくりについて自己の考えを述べることができる。 5. 高齢者にとっての健康維持・増進の意義を説明できる。 6. 高齢者の生活機能の評価指標が説明できる。 7. 高齢者の健康づくりに関する制度・法律について説明できる。 8. 高齢者のヘルスプロモーションの必要性を説明できる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」NDP3 ◎ 「意欲・態度」NDP6 ○		
授業の概要	保健行動論を学ぶ目的は成人・老年期の人々の健康を育む支援のあり方を学ぶことにある。 成人の健康は加齢、家庭・職業・地域における役割、環境要因に深く関連しており、健康行動に必ずしもつながらないという特徴がある。よりよい老年期を迎えることができるよう、成人期にある人の健康の保持・増進・疾病予防に向けた支援の方法について考える。また、老年期を生き生きと生きるための健康行動を支え、社会活動・社会参加の有用性について、ヘルスケアシステムの活用と看護実践について学ぶ。特に高齢者のヘルスプロモーションの必要性や高齢者の特徴を踏まえた生活習慣病予防の必要性と介護予防について学ぶ。さらに、高齢者の生活機能の評価する指標および高齢者の健康づくりに関する制度・法律について学ぶ。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師として、成人期や老年期にある対象への医療現場での実務経験を踏まえて、成人・老年期のあらゆる人々のwell-beingを目指した看護援助の考え方について総合的に解説する。		
学生に対する評価の方法	成人・老年：①授業への参画態度（10%）、②レポート課題（20%）、③理解度確認（70%）から総合的に評価する。 成人・老年の評価を総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 成人の健康観と健康行動の特徴（宮本） 第02回 成人保健の動向からみた成人各期の健康状態と健康を脅かす要因（宮本） 第03回 成人への健康保持・増進、QOLの向上に向けたアプローチ（宮本） 第04回 成人期にある人々の健康課題と保健医療福祉施策（宮本） 第05回 老年期の健康行動、高齢者の社会活動・社会生活（櫻井） 第06回 高齢者の生活機能の評価指標（櫻井） 第07回 高齢者のヘルスケアシステムとヘルスプロモーション（櫻井） 第08回 理解度確認とまとめ、授業全体の振り返り（学生受講結果アンケートの実施）		
使用教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論、医学書院 ②看護診断のための中範囲理論 第3版 学研 ③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	予習は各講義に該当するテキストの内容をよく読み、疑問や意見を明確にして授業に臨んでください（毎回60分）。復習は各回で示される学習目標に沿って、自分なりに学習内容やキーワード、各授業で示された重要事項についてまとめたノートを作成・整理し、理解しておいてください（毎回60分）。		

授業概要（シラバス）

授業科目名	急性期看護		
授業担当者名	伊藤 美智子、八田 早恵子、佐藤 由佳、三輪 桂子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	複数（主担当：伊藤美智子）	ナンバリングコード	241-1AGN2-04
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 急激な侵襲を受け健康破綻をきたした対象とその家族を理解し、援助を実践するために必要な基礎知識とアセスメント能力を身に着けることができる 〔授業科目の到達目標〕 1. 周手術期にある患者・家族の身体的・社会的・心理的特徴を捉える方法を述べることができる 2. 手術侵襲とその生体反応の特徴、生命維持・早期回復を促進する看護について説明できる 3. 周手術期における身体面への看護を説明できる 4. 周手術期における患者・家族の心理・社会面への看護を説明できる 5. 急性期における基本的な看護技術を習得することができる 6. クリティカル期における患者・家族の特徴を説明できる 7. クリティカル期における看護の特徴と役割を説明できる		
	ディプロマポリシーとの関連 急性期看護の講義を通して、急性期にある患者とその家族への看護に必要な知識や技術、アセスメント能力を修得することができる。 「知識・技能」NDP3 ◎ 「思考力・判断力・創造力」NDP1.4 ○		
授業の概要	急性期看護の目的は、急激な健康状態の変化や、手術侵襲による人間の反応（生体反応を含む）を踏まえ看護を実践するための基礎的な臨床判断能力を習得することにある。急性期にある人の生命維持、全身状態の改善、合併症・二次的障害予防を視野に入れ、QOL向上のための看護とチーム医療について学ぶ。さらに急性期にある人の家族の心理的特徴を理解し、ケア提供の場の調整や個別的な対応と、周手術期、クリティカル期にある人の理解と順調な回復を促すための看護を学ぶ。看護過程ではゴードンの看護過程を学び、それを用いた周術期のアセスメントを展開する。 ＜実務経験と本科目の関連＞ 急性期看護における教員の実務経験を活かし、実際に患者を看護する際に、どのような事象が起こり、留意点として何が必要かについて事例を用いて講義していく。また、根拠をもって看護する必要性を学生が臨床で起こりうることに基づいて理解していけるよう、臨床判断能力も育成することができるような授業展開を行う。		
学生に対する評価の方法	学習状況：演習及びレポート（20%）、授業内容に対する理解度の確認（80%）から総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 急性期看護概論(伊藤) 第02回 クリティカル期にある患者の看護(伊藤) 第03・04回 術前の看護(佐藤) 第05回 術中の看護(伊藤) 第06～08回 術後の看護(伊藤・佐藤) 第09・10回 演習・術後の観察(伊藤・佐藤) 第11回 理解度の確認①(伊藤・佐藤)・臨床判断(伊藤) 第12回 消化器疾患患者の看護①(伊藤) 第13回 消化器疾患患者の看護②(伊藤) 第14回 消化器疾患患者の看護③(伊藤) 第15回 呼吸器疾患患者の看護(佐藤) 第16回 演習・吸引(佐藤・伊藤) 第17回 腎・泌尿器疾患患者の看護(伊藤) 第18回 運動器疾患患者の看護①(佐藤) 第19回 運動器疾患患者の看護②(佐藤) 第20回 脳神経疾患患者の看護(伊藤) 第21回 循環器疾患患者の看護①(伊藤) 第22回 演習・BLS(伊藤・佐藤) 第23回 循環器疾患患者の看護②(伊藤) 第24回 女性生殖器疾患患者の看護(佐藤) 第25回 看護過程(伊藤) 第26～28回 演習・看護過程(伊藤・佐藤) 第29回 小児の看護(八田・三輪) 第30回 演習・小児看護(八田・三輪・伊藤・佐藤) 第31回 理解度の確認②と授業全体の振り返り(学生受講結果アンケートの実施)		

授業概要（シラバス）

使用教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2・3・4・5・6・7・8・9・10・11 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 臨床外科総論、臨床外科各論 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 救急看護学 医学書院 ④系統看護学講座 専門分野Ⅱ クリティカル看護学 医学書院 ⑤臨床看護技術2 インターメディカ ⑥系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	事前学修(各講義に対して60分程度)：各講義に該当する教科書の内容を熟読する、もしくは事前に出す事前課題を実施し、理解できていない点を明確にした上で受講してください。 事後学修(各講義に対して60分程度)：各講義で学習した内容を整理し、理解ができているか復習をしてください。課題を課す場合があります。

授業概要（シラバス）

授業科目名	老年学		
授業担当者名	櫻井 香、神谷 智子		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	1年次後期
教員担当形態	オムニバス（主担当：神谷 智子）	ナンバリングコード	241-1AGN1-02
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔テーマ〕 高齢者の加齢変化および特性を踏まえた看護を実践するための基盤となる知識を習得する。 〔到達目標〕 1. 人間の老いるという現象について多角的に説明できる 2. 加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響について説明できる 3. 高齢者の代表的な疾患や特徴的な症状とその予防について説明できる		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」NDP3◎、「意欲・態度」NDP6○		
授業の概要	老年学の目的は、対象を生物学的、心理学的、社会的な観点から捉えたうえで、ヒトの加齢現象や社会の高齢化にかかわる諸問題の解決を探究することである。老化に関する学説についての知識を深め、加齢や老化にはどのような生理的、機能的、精神的な背景があるかを学修する。また、加齢に伴う心身の変化が日常生活にどのように影響するかを理解するとともに、高齢者の疾病をめぐる特徴を踏まえ、予防的観点から老年期の人々への看護の在り方について学修する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師として老年期にある対象への医療現場での実務経験を踏まえて、高齢者の健康レベル及び療養の場に応じた看護を実践するための専門的な知識を総合的に解説する。		
学生に対する評価の方法	①授業への参画態度（20%）②授業内容の理解度（80%）から総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 加齢に伴う生理的变化と心理的变化（講義）櫻井 第02回 運動器（骨）系の加齢変化、老年期に顕著にみられる運動器（骨）系の疾患、症状をもつ高齢者への看護実践に必要な情報とアセスメントの視点（講義）櫻井 第03回 感覚器（皮膚）系の加齢変化、老年期に顕著にみられる皮膚疾患、症状をもつ高齢者への看護実践に必要な情報とアセスメントの視点（講義）櫻井 第04回 感覚器系（聴覚、視覚、感覚神経）の加齢変化、老年期に顕著にみられる感覚器系の疾患、症状をもつ高齢者への看護実践に必要な情報とアセスメントの視点（講義）櫻井 第05回 摂食嚥下機能の加齢変化、老年期に顕著にみられる摂食嚥下に関する疾患、症状をもつ高齢者への看護実践に必要な情報とアセスメントの視点（講義）櫻井 第06回 高齢者に特徴的な症候と疾患（泌尿器）（講義）神谷 第07回 高齢者に特徴的な症候と疾患（認知機能）（講義）神谷 第08回 授業全体の振り返り、理解度の確認（学生受講結果アンケートの実施）神谷・櫻井		
使用教科書	1）北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2）鳥羽研二ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護・病態・疾患論 医学書院		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	予習は各講義に該当するテキストの内容をよく読み、疑問点や意見等を明確にして授業に臨んでください（毎回60分）。復習は、各回で示される学習目標に沿って自分なりに学習内容やキーワード、授業で示された重要な点をまとめたノートを作成し、整理しましょう（毎回60分）。日ごろから、新聞や雑誌、書籍、ニュースなどで関連するワードに注目しておきましょう。		

授業概要（シラバス）

授業科目名	小児看護学概論		
授業担当者名	八田 早恵子、金城 やす子、三輪 桂子		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	オムニバス（主担当：八田 早恵子）	ナンバリングコード	241-1CHN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 子どもが社会の中でどのように存在するのか、子どもの人権擁護がどのようになされているのかを考える。その上で子どもの特徴や社会的存在について理解し、小児看護の目的と役割が理解できる。 〔授業科目の到達目標〕 1. 子どもとは何か、社会における子どもの存在について理解することができる。 2. 子どもに関連する政策や保健・福祉制度について理解することができる。 3. 子どもに対する人権、権利擁護、倫理的配慮について説明することができる。		
ディプロマポリシーとの関連	DP1:知識・技能 ◎（NDP3） DP2:思考力・判断力・創造力 ○（NDP1 NDP4）		
授業の概要	小児看護学概論の目的は、小児看護学全般について小児看護の概念と理論（成長、発達、家族、母子関係）を学ぶことにある。小児看護の対象である子どもの理解をうながすために、子どもとは何か、子どもの存在について考える。子どもが社会の中でどのように存在してきたのか、医療や看護、社会情勢との関連において子ども観の変遷を学ぶ。そのうえで、子どもの人権と看護について学ぶ。さらに、子どもを取り巻く社会や経済状況、保健・福祉制度について理解することで、子どもの倫理面に関する理解を深める。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての小児看護の実務経験をもとに、小児看護の概念と理論に関する理解を促すために、子どもを取り巻く社会や経済状況、保健・福祉制度についての専門的な知識を総合的に解説する。		
学生に対する評価の方法	① 講義への参画度 5% ② 授業内容理解度確認 60% ③ 課題（ポートフォリオを含む） 35% ①～③を総合的に判断し、100点満点として評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01 回 小児看護の特徴、小児看護の変遷、小児看護の役割 （八田） 第02 回 小児看護と倫理：子どもの権利と人権、児童憲章、児童の権利条約 小児看護に関連した諸統計（八田） 第03 回 子どもにとっての家族とは、子どもの事故・外傷、虐待と看護（八田） 第04 回 子どもを取り巻く社会：児童福祉、母子保健、医療費助成（三輪） 第05 回 子どもを取り巻く社会：予防接種、学校保健（八田） 第06 回 病気・障害を持つ子どもと家族の看護（三輪） 第07 回 障害のある子どもと家族の看護：障害のある子どもと家族への具体的支援 発達障害、災害看護、虐待と看護（八田） 第08 回 子どもを看護するとは／ 理解度確認 （八田） 授業全体の振り返り （学生受講結果アンケートの実施）		
使用教科書	医学書院 『系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学1』 参考資料等は講義時に配布、説明します。		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	① 次回講義範囲を示すので、教科書、資料を読んで、不明な点は自己学習（事前学習）し、ポートフォリオにファイルすること。 ② 講義終了後、講義内容を確認し、不明な点は各自で調べポートフォリオにファイルすること。 事前学習には60分～90分使用、事後学習は40～60分使用		

授業概要（シラバス）

授業科目名	母性看護学概論		
授業担当者名	鈴木 孝、小幡 さつき、本間 美穂		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	オムニバス（主担当：鈴木孝）	ナンバリングコード	241-1MAN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目 講義科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 次世代の健全育成・人間形成の基盤にかかわる母性看護の特徴について学び、母性機能を有した女性を理解し、健康のあり方と健康問題について理解を深めると共に、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を知ることができる。 〔授業科目の到達目標〕 1. 母性看護の基盤となる概念や理論について説明できる。 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷について学ぶことができる。 3. ヒトの性分化、形態、機能の変化を知ることができる。 4. 女性のライフステージ各期の健康問題および看護について説明できる。 5. 母子保健の統計指標について説明でき、母子保健の動向を把握できる。 6. 母性看護における倫理的課題・諸問題について考察できる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」NDP3◎、「意欲・態度」NDP6○		
授業の概要	次世代の健全育成・人間形成の基盤にかかわる母性看護の概念や理論を理解し、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状について学ぶ。また、人間の性と生殖の側面から看護の目的、機能、役割について理解する。さらに、女性のライフサイクルの特徴をふまえ、女性のライフステージ各期における健康および看護について学び、生殖補助医療や出生前診断、産科医療の現状と課題など母性看護における倫理的課題・諸問題について学びを深める。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての母性看護の実務経験をもとに、母性看護の概念や理論に関する理解を促すために、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状についての専門的な知識を総合的に解説する。		
学生に対する評価の方法	理解度の確認（80％）レポート課題（20％）		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 母性看護とは 母性看護の基盤となる概念や理論 ・・・・・・・・・・鈴木 第02回 母子保健統計からみた動向/母性看護に関する法律・制度・施策 ・・・・・・・・・・鈴木 第03回 性・生殖に関する生理 リプロダクティブヘルス/ライツにおける概念と動向 ・・・・・・・・・・鈴木 第04回 リプロダクティブヘルス/ライツにおける社会的課題と倫理的課題 ・・・・・・・・・・鈴木 第05回 思春期・成熟期の健康問題と看護 性感染症と予防 ・・・・・・・・・・小幡 第06回 受胎調節と家族計画 更年期・老年期の健康問題と看護 ・・・・・・・・・・本間 第07回 性暴力・児童虐待防止 不妊症の看護 ・・・・・・・・・・鈴木 第08回 理解度の確認 まとめと解説 授業全体の振り返り （学生受講結果アンケートの実施） ・・・・・・・・・・鈴木		

授業概要（シラバス）

使用教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学Ⅰ 医学書院 2021. 国民衛生の動向 参考図書： 母子保健の主なる統計 財団法人母子衛生研究会 新体系看護学全書 母性看護学Ⅰ 母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護，メヂカル フレンド社，第7版，2022. ナーシンググラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護，メディカ 出版，第3版，2024. 病気がみえるVol.10産科，MEDIC MEDIA，第4版，2021.
自己学習（予習・復習 等の内容・時間）	母性看護学を学ぶ上での入門となる。各自講義に関する学びを深めるために、問題意識を 持った自己学習を重ねること、自らの学びとする努力をすること（90分）。 母性看護に関連する法律や制度、母子保健統計のデータなどは社会の変化に連動して変化 することが多くある。また、産科医療にかかわるトピックなど授業以外の場でも鋭敏にな り学んでほしい。特に、生命倫理、女性の健康への理解を深めるための性と生殖、健康を より促進する看護の考え方、女性を取り巻く社会状況など考察する姿勢が大切になる。

授業概要（シラバス）

授業科目名	母性看護方法論1		
授業担当者名	小幡 さつき、鈴木 孝、本間 美穂		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	オムニバス（主担当：小幡 さつき）	ナンバリングコード	241-1MAN2-02
備考	実務経験のある教員担当科目 講義科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 周産期（妊娠・分娩・産褥）にある女性の身体的・心理社会的な変化および新生児の特性を理解し、正常な経過をたどるために必要な看護について学ぶ。 〔授業科目の到達目標〕 1. 正常な経過をたどる妊産褥婦の身体的・心理社会的な変化と新生児の特性について説明できる。 2. 周産期にある母子についてウェルネスでのアセスメントの視点が説明できる。 3. 周産期にある母子が正常な経過をたどるために必要な看護について説明できる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」NDP3◎、「思考力・判断力・創造力」NDP1.NDP4○		
授業の概要	正常な経過をたどる妊産褥婦および新生児の特性と看護実践に必要な知識を習得する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての実務経験をもとに具体的な事例を交えながら、周産期にある母子への看護について理解を深める。		
学生に対する評価の方法	授業内容の理解度(80%) 課題レポート(20%)：事前・事後学修ノート		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01～04回 妊娠経過と看護（反転授業）・・・・・・・・小幡 第05～07回 分娩経過と看護（講義）・・・・・・・・鈴木 第08回 理解度確認（妊娠期・分娩期小テスト）と解説・・・小幡・鈴木 第09～12回 産褥経過と看護（講義）・・・・・・・・小幡 第13～14回 新生児の特徴と看護（講義）・・・・・・・・本間 第15回 理解度確認（産褥期・新生児期小テスト）と解説 授業全体の振り返り（学生受講結果アンケート）・・・小幡・鈴木・本間		
使用教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 第15版 2026. 病気がみえるVol.10産科, MEDIC MEDIA , 第4版, 2018.		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	事前学修（90分）：講義内容のキーワードについてノートにまとめ、質問や確認事項を明確にして受講する。妊娠期は反転授業とし、事前学修した内容についてグループ発表し、学生間で学びを共有する。また、分娩期・産褥期・新生児期も同様にノートにまとめ講義を受講する。 事後学修（90分）：講義のポイントや新たな関心事をノートに整理し、看護学実習や国家試験対策などに反映させる。		

授業概要（シラバス）

授業科目名	精神看護学概論		
授業担当者名	永井 邦芳		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1PMN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 精神看護学とは何であるのか、何をすることが精神看護なのかということに対しての解答を得るための基盤となる知識、考えを修得する 〔授業科目の到達目標〕 ①精神の健康とは何かについて説明できる ②精神看護に関連のある理論や概念について説明できる ③生物的、心理的、社会的側面から精神（こころ）を説明できる ④こころの成長発達について説明できる		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」NDP3◎、「意欲・態度」NDP6○		
授業の概要	精神看護学概論では、精神看護学とは何であるのか、何をするものなのかという問いに対して、その中心概念となる「こころ」について生物的、心理的、社会的側面から理解できるように学修を進める。その中で脳の構造や機能と精神活動、ライフサイクルと心理発達、社会とメンタルヘルス、精神保健福祉の歴史的背景などについて理解を深め「心の健康」また「精神障害」とは何かと言う問いに対する答えを見出しながら、精神医療保健福祉における看護師の果たすべき役割と機能について理解することにある。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての精神障害者への実務経験をもとに、精神看護学の中心概念である「こころ」について生物的、心理的、社会的側面から理解するために、専門的知識を総合的に解説する。		
学生に対する評価の方法	ミニットペーパー（20％）、理解度確認(80%)		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 精神の健康と精神障害 【講義】 第02回 精神（こころ）のとらえ方（人間のこころの諸活動について） 【講義】 第03回 こころの仕組みと人格の発達1（フロイトの精神力動論から考えるこころ） 【講義】 第04回 こころの仕組みと人格の発達2（クライン対象関係論 ポウルビー愛着理論から考えるこころ） 【講義】 第05回 脳機能と精神活動（情動、認知、記憶） 【講義】 第06回 心の危機とストレス（危機理論、ストレス反応、ストレスコーピングについて） 【講義】 第07回 生活の場と精神（こころ）の健康 【講義】 第08回 理解度確認、精神医療保健福祉の歴史 【講義】 授業全体の振り返り 学生受講結果アンケートの実施 ※ すべての講義はアクティブラーニング（バズセッションを1講義当たり2～3回）を取り入れて行う		
使用教科書	精神看護の基礎：医学書院		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	事前学修として教科書で予習（45分）をしておいてください。また復習（45分）をしっかりとすることで講義での内容が知識として定着しますので、講義の振り返り学修を丁寧にしてほしいと思います。		

授業概要（シラバス）

授業科目名	精神看護方法論1		
授業担当者名	永井 邦芳、藤澤 浩美		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	オムニバス（主担当：永井邦芳）	ナンバリングコード	241-1PMN2-02
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 政審疾患の病態・症状・検査・治療を踏まえ、援助を実践するために必要な知識・技術を習得する 〔到達目標〕 1. 精神症状とその対応について理解できる。 2. 精神疾患（障害）の種類と特徴、治療について看護の視点から理解ができる。 3. 精神科リハビリテーションの具体的方法及び関連する職種の役割、機能について理解できる。 4. 精神障害者の地域移行上の問題と対策、看護の役割について理解できる		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」NDP3◎、「思考力・判断力・創造力」NDP1.4○		
授業の概要	精神看護方法論1の目的は、精神障害（精神的問題）により様々な生きにくさを抱えながら生活している当事者への具体的支援方法を学修する。精神疾患を含む精神障害の特徴を踏まえ、行われている治療やリハビリテーション（薬物療法、精神療法、心理社会療法等）を理解し、看護師としての専門的な支援の在り方について学ぶ。さらにこれからの精神保健福祉医療の在り方として地域生活という視点を重視し、精神障害者自身が自身の生活を主体的に営んでいくための支援について学修する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての精神障害者への実務経験をもとに、精神保健福祉医療で実際に起きている課題や対応について具体例を示し、必要な支援を検討する。		
学生に対する評価の方法	提出を義務づけるリアクションペーパー及びミニットペーパー（20％）講義理解度確認（80％）により総合的に判断する。講義理解度確認は15回の講義とは別に設定する日時で行う。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 精神看護師の役割 精神看護で用いられる看護理論とその応用（セルフケア理論 人間関係論リカバリー論）：永井 第02回 精神障害と法制度（精神保健福祉法 障害者総合支援法 医療観察法）：永井 第03回 精神症状についての理解① 意識、知覚、思考、感情の看護アセスメント：永井 第04回 精神症状についての理解② 精神現症と状態像の看護アセスメント 第05回 精神科における入院治療と看護 第06回 精神科治療と看護の役割（薬物療法）：永井 第07回 精神科治療と看護の役割（心理社会療法、認知行動療法その他） 第08回 精神障害の病態と看護 急性期に起こることと看護（統合失調症圏：急性混乱、精神運動興奮時の対応とリスクマネジメント）：藤澤 第09回 精神障害の病態と看護 慢性経過の患者への看護（残遺症状と陰性症状）：永井 第10回 精神障害の病態と看護 気分（感情に問題を抱える人）への看護（抑うつ、昏迷、自殺自傷リスクへの対応）：藤澤 第11回 精神リエゾン看護：藤澤 第12回 精神障害の病態と看護 アディクションと看護（離脱症状 共依存 ピアグループ） 第13回 精神障害の病態と看護 社会で生きにくさを抱える人への看護（パーソナリティ障害 発達障害圏）：永井 第14回 心的外傷（PTSD）とトラウマケア：永井 第15回 精神医療における退院支援と地域移行支援 授業全体の振り返り 学生受講結果アンケートの実施 永井 ※講義はすべての回でアクティブラーニング（バスセッションを2-3回）取り入れて展開する		
使用教科書	医学書院 精神看護の展開		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	使用する教科書を確認したうえで授業に参加する（45分）、授業の復習については、授業終了後できるだけ早い段階で理解しづらかった部分を解決しておくようにしてください（45分）。		

授業概要（シラバス）

授業科目名	健康生活支援論		
授業担当者名	神谷 智子		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1CON1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔テーマ〕 地域での人々の暮らしを知り、暮らしが健康に与える影響を理解する 〔到達目標〕 1. 「暮らす」とはどういうことか自分の考えを述べることができる 2. 地域で暮らす人々の生活と地域の多様性を理解できる 3. 地域で暮らす多様な人々が看護の対象であることを理解できる 4. 地域と暮らしと健康との関係を説明できる 5. 看護の観点から地域の暮らしを理解する必要性を説明できる		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」NDP3◎、「思考力・判断力・創造力」NDP1、NDP4○		
授業の概要	地域で生活する人々の暮らしと健康を支援するためには、入院患者中心ではなく、地域で暮らす人々すべてが看護の対象であることを認識する。そのために、地域で暮らす人々とその暮らしの実際を知り、暮らしや生活環境が健康に与える影響について理解することが重要である。授業では、地域、暮らし、人間、健康についてのディスカッションを通して看護の対象への理解を深める。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての地域での活動の実務経験を踏まえて、地域での人々の生活と健康への影響について具体例を交えながら看護の対象への理解を深める。		
学生に対する評価の方法	①課題（30%）②レポート（40%）③授業への参画態度（30%）以上の3点から総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 ガイダンス、暮らしとは何か（講義） 第02回 地域とそこに暮らす人々（講義・GW） 第03回 そこに住む人々の想い、力、支えあい（講義・GW） 第04回 身近な地域を看護の視点で観察する（講義・GW） 第05回 身近な地域とそこでの暮らし（講義・GW） 第06回 暮らしと人々の想いについて考える（講義・GW） 第07回 暮らしと健康について考える（講義・GW） 第08回 地域と暮らしと健康との関連（講義・GW） 授業全体の振り返り（まとめ）（学生受講結果アンケートの実施）		
使用教科書	河原加代子ほか：系統的看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	予習は、各講義に該当するテキストの内容をよく読んで授業に臨んでください。日常生活の出来事やニュースなどで、暮らしと健康に関する情報に関心を寄せノートに記載しましょう（60分）。復習は、講義で学習した内容をノートに整理し、課題レポートに反映させましょう（60分）。		

授業概要（シラバス）

授業科目名	統合看護技術論		
授業担当者名	佐藤 由佳、宮本 恵子、鈴木 里美、土井 智子、宮村 啓子、岩原 花契		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	4年次前期
教員担当形態	複数（主担当：佐藤由佳）	ナンバリングコード	241-1CON3-12
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	<テーマ> 専門職業人としての自覚をもち、対象の状況に応じた看護を実践する知識・技術を習得する。		
	<到達目標> 1. 看護単位における看護チームの一員としての役割を理解できる。 2. 一人の患者における複数の看護問題について優先度の判断と看護に実践ができる。 3. 複数患者における多数の看護問題について優先度の判断と看護の実践ができる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」NDP3 ◎ 「思考力・判断力・創造力」NDP1.4 ○		
授業の概要	この科目の目的は、専門分野での各領域別の看護実習を踏まえ、実際の臨床の場面を想定し、①複数の患者を受け持ち、看護問題の優先度の判断、②必要とされるいくつかの看護援助（多重課題）の状況判断、実施計画、方法の選択について学修する。模擬患者を設定し、臨床現場で想定した状況において演習することで、対象の状況に応じた看護を実践する知識・技術を習得することができる。 <実務経験と本科目との関連> 看護師としての実務経験をもとに、チーム医療や多重課題の場面における困難事例を提示し、実際に起きている課題を分析し、望ましい解決情報について具体的に検討する。		
学生に対する評価の方法	アクティブラーニングを活用して演習への参画度（50%）、ポートフォリオ（50%）により総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 ガイダンス、社会人基礎力についての確認（担当：佐藤） 第02回 目標到達のための計画立案、グループワーク（担当：佐藤） 第03回 複数患者の看護計画の立案、グループワーク（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） 第04回 複数患者の看護計画の立案、グループワーク（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） 第05回 看護技術練習（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） 第06回 看護技術練習（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） 第07回 受け持ち患者の観察とアセスメント（技術チェック）（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） 第08回 受け持ち患者の観察とアセスメント（技術チェック）（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） 第09回 複数患者への優先順位を考えた看護の実践①グループワーク（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） 第10回 複数患者への優先順位を考えた看護の実践①グループワーク（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） 第11回 複数患者への優先順位を考えた看護の実践②多重課題演習（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） 第12回 複数患者への優先順位を考えた看護の実践②多重課題演習（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） 第13回 複数患者への優先順位を考えた看護の実践②多重課題演習（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） 第14回 プレゼンテーション準備（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） 第15回 プレゼンテーション・授業全体の振り返り（担当：佐藤・宮本・鈴木・土井・宮村・岩原） （学生受講結果アンケートの実施）		
使用教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅰ 「基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅰ 「基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 ③新訂版 写真でわかる臨床看護技術1アドバンス インターメディカ ④新訂版 写真でわかる臨床看護技術2アドバンス インターメディカ		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	事前学修(各講義に対して60分程度)：各講義に該当する教科書の内容を熟読する、もしくは事前に出す事前課題を実施し、理解できていない点を明確にした上で受講してください。 事後学修(各講義に対して60分程度)：各講義で学習した内容を整理し、理解ができているか復習をしてください。課題を課す場合があります。		